

各位

上場会社名 株式会社 京写
 代表者 代表取締役社長 児嶋 一登
 (コード番号 6837)
 問合せ先責任者 経営企画部門ゼネラルマネジャー 平岡 俊也
 (TEL 075-631-3193)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,400	320	330	210	14.66
今回発表予想(B)	8,200	500	510	280	19.54
増減額(B-A)	800	180	180	70	
増減率(%)	10.8	56.3	54.5	33.3	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	6,217	145	166	109	7.63

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	15,000	700	700	450	31.42
今回発表予想(B)	15,800	880	880	520	36.29
増減額(B-A)	800	180	180	70	
増減率(%)	5.3	25.7	25.7	15.6	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	13,725	681	664	350	24.47

平成23年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,800	15	110	80	5.59
今回発表予想(B)	3,000	15	160	80	5.58
増減額(B-A)	200	0	50	0	
増減率(%)	7.1	0.0	45.5	0.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	2,480	△14	30	△2	△0.16

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,800	40	240	180	12.57
今回発表予想(B)	5,800	40	290	180	12.56
増減額(B-A)	0	0	50	0	
増減率(%)	0.0	0.0	20.8	0.0	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	5,331	31	315	157	10.98

修正の理由

1. 第2四半期累計期間
(連結)

海外の販売につきましては、特に中国において、当第1四半期における映像関連分野や自動車関連分野を中心とした受注の回復が予想以上のスピードで進み、また、第2四半期においても同様の水準での受注が見込まれております。国内の

販売につきましても、当第1四半期において自動車関連分野やアミューズメント関連分野において受注の回復が進みました。この結果、当第2四半期累計期間における売上高は、前回予想を800百万円上回る8,200百万円となる見通しであります。

営業利益及び経常利益につきましては、主に上記売上高の増加により、前回予想をそれぞれ180百万円上回る500百万円、510百万円となる見通しであります。

四半期純利益につきましては、主に上記の理由から前回予想を上回る見通しですが、本日別途公表しております「役員退職慰労金制度の廃止及び特別損失の発生に関するお知らせ」のとおり、当第1四半期に個別において役員退職慰労金制度の廃止に伴う特別損失88百万円を計上したことなどにより前回予想を70百万円上回る280百万円となる見通しであります。

(個別)

売上高につきましては、上記第2四半期連結累計期間の連結業績修正理由に記載のとおりであります。

営業利益につきましては、当初予想からの修正はありません。

経常利益につきましては、海外連結子会社からの配当金の増加などにより前回予想を上回る見通しではありますが、四半期純利益につきましては、上記第2四半期連結累計期間の連結業績修正理由に記載の理由により、当初予想からの修正はありません。

2.通期

(連結)

当期下半期につきましては、価格競争の激化や原材料価格の上昇傾向が続くなど、依然先行きの不透明な状況が続くと予想されますが、グローバル体制を活かし積極的に中国等新興国における需要を取り込むとともに原価や経費等の削減の一層の推進を図ることなどにより、当初予想と同水準の業績にて推移するものと予想しております。以上のことから、上記第2四半期累計期間の業績予想の修正を反映し、通期の業績を修正しております。

(個別)

通期の個別業績につきましては、連結同様、価格競争の激化や原材料価格の上昇傾向が続くことに加え、当期下半期にかけて、政府の経済対策の終了が予定されるなど、先行きの不透明感はより一層強いものとなることが予想されます。

当社としましては、当第1四半期に見られた国内需要の回復傾向を取り込むとともに、原価や経費等の削減を含む経営の効率化を推し進めることにより、売上高及び営業利益につきましては、当初予想を維持できるものと予想しております。

経常利益及び当期純利益につきましては、上記第2四半期累計期間の個別業績修正理由に記載のとおりであります。

なお、連結業績予想におきましては、第2四半期並びに通期とも1USドル＝90円を想定しております。

※業績予想につきましては、本資料の発表日現在において得られた情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確定な要素を含んでいるため、実際の業績は、今後の様々な要因によって上記予想と異なる場合があります。

以 上